

***親子で納得 ニュースな経済学

経済ジャーナリスト・内田裕子

最近、「ワークライフバランス」という言葉がよく使われるようになりました。「仕事(ワーク)」だけでなく、「生活(ライフ)」に使う時間のことも考えてみましょう、と会社が社員に呼びかけているもので、国が進めている政策でもあります。仕事と個人的に使う時間、両方が充実していることが、活力につながると考えるからです。

なぜ、いま、このようなことがいわれているのでしょうか。これまで日本の社会では「会社員は朝から晩まで仕事をするのが当たり前」という風潮がありました。「企業戦士」という言葉が昭和の時代にあったように、仕事に熱中することがまじめな会社員の生き方とされました。日本が豊かな国になれたのは当時のお父さんたちのおかげで

仕事と個人の生活、両方の充実めざす

す。ですから、お母さんが専業主婦として家を守って、お父さんが残業や出張などで、おそくまで帰ってこないのは、ふつうの家庭の姿でした。

しかし、その代わりに問題もかかえることになりました。働きすぎて体をこわしたお父さんもいました。家族と過ごす時間をとらなかったため家庭内で信頼関係をきずくことができなかったり、定年後に何をしたらよいのか分からず、自分の居場所や役割を見つけられなかったりするお父さんが増えました。「ワークライフバランス」がいわれるようになったのはそのような反省もあります。

お母さんの生き方にも変化があります。女性の社会進出がすすみ、「仕事」と「子育て」の両立に悩むお母さんが増えました。これまで、どちらかをあきらめる、というケースが多かったのです。それが、「ワークライフバランス」で両方とも実現しようと、子育てしながら働けるような環境づくりを力を入れるようになってきたのは、うれしい進化といえるのです。



日本社会が、経済だけを追い求める生活から、個人の幸せを追求する生活に変わっていきとうとしています。幸せを感じる時間は人によってさまざまです。例えば、家族と楽しく過ごす、習い事をして能力を高める、自分が住んでいる地域でボランティアをする、体をきたえて健康を保つなど、いろいろあります。生活が充実すれば、仕事も楽しくなりますね。みんなが自分らしい生き方を選ぶことができ、それを認める社会は理想です。

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。ウェブサイトは、<http://www.takarabe-hrj.co.jp/uchida/>

仕事の打ち合わせをする女性スタッフ
二〇〇八年十二月
岡山県田市で
© 朝日新聞